

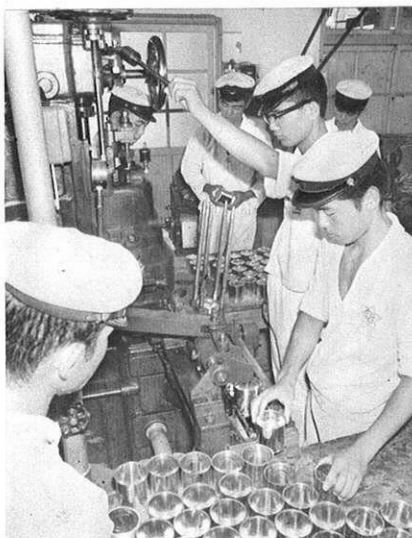
上・体育訓練では相撲競技に人気が湧く



上・規則正しい遠泳訓練も



上・男子生徒に負けてはと、至極手なれた和船の実習



上・加工技術も一応マスターして…



上・実習の場としては申し分ない遠洋航海

△県計画シリーズ▽

特集／農林漁業の近代化

農業 安定農業の実現へ……………8

林業 早く育ててひきあう林業へ……………28

水産業 つくる漁業への基盤づくり……………31

■現地ルポ■

★共同防除の先駆者(五和町)……………15

★ほ場整備で田畑輪換(免田町)……………16

★集団・協業の典型(錦町)……………26

★森林開発の動脈(泉村)……………31

★水産種苗センター……………34

△第一線の人びと▽

畜産技術指導職員……………25

随想

情報と制禦小貫 章・パリーを想う正木忠男
夏と住まい 西村光代

★グラフィック★

★海にいだむ(県立水産高校を尋ねる)……………13

★目にする農林漁業の近代化……………17

★第一線の人びと……………24

★新産業風土記△砦砂▽……………37

★県政ハイライト……………38

表紙／牛深港の漁船群・センターカラー／江津湖(熊本市)

海原にかける夢

— 県立水産高校の若者たち —

蒼い空と海の間を、海の若者たちは今日も重いオールを力いっぱい漕ぐのだ。潮風にやけた肌に、王な才汗が太陽にキラキラと光る。かけ声も勇ましく、ただ力いっぱい漕ぐのだ。遠い水平線に湧く白い雲。拡がる希望と夢。海に生きる、それはロマンなひびきがないこともないが、現実の問題としてはきびしい。そして意義のあることだ。天草の富岡にある県立水産高校では、人づくりの一環として、水産技術の実習や教養全般を高めながら職業的に、社会的に期待される人間像をつくり上げるため生徒の訓練が行なわれている。体育訓練、手旗・航海技術・ボート・水泳などの訓練、水産加工技術の実習ほか、かなり広い範囲の学習科目がある。三年生になると漁業科の生徒たちは北洋・華東ラインへと三カ月の遠洋航海へ出発する。これは海洋調査が目的だが、この期間に生徒たちはミツチリと日頃学んだ技術を実地で確かめるわけである。この実習期間中に、就職先も決まり、卒業と同時にトロール船団やマグロ船団へと羽ばたいていくのである。